



発行責任者 岩井 寛

郵政産業 ユニオン 補安

2014年 10月 1日

発行 郵政産業労働者ユニオン浦安支部

HP <http://piwu-urayasu.jp>

Mail

otegami@piwu-urayasu.JP

やっぱり問題だらけの「業績手当」 競争あおり、労働強化へ



多くの人は年収「減」

「これじゃカミさんに何言われるかわからないよ」、「俺もだよ」と、9月の給与明細書を見ながらの郵便部での社員の会話。「業績手当」の原資でカットされた給与は、祝日給も残業代も少ない、月の給与は深刻だ。「原資」での減額分は、集配で月四万七千円分と言われるが、その額に達しなければ、明らかに減額なのです。大きな格差を生む「集配」での問題点を見ていきます。

同じ仕事でも各差が

営業実績で班内での支給額で2万23万円の差が出ているのです。それは、社員同士の「共助共援」よりも自分の営業実績を求める風潮を助長さ

せてもいます。

また、業績手当(業務)での「基礎集配ポイント」での獲得数の違いです。混合担務には標準で6P付与されるのですが、通配担務では配達基準物数に関わって2Pしかない日が多いのです。ほぼ毎日通配担務に入る社員は60270Pしかならず、6P×20日の120Pを基準とすれば、遠く及ばない制度上の欠陥があるのです。

改善に向けた取組を！

さらに、「同じ仕事につき実績が同じでも」支給額が役職係数によって大きな格差を生む問題の是正が必要です。

全国の職場では、「基礎集配ポイント」を多く獲得するために、DOSの虚為入力や勤務時間を守らないただ働きなど以前より多くなり、社員間の競争を煽り労働強化をもたらしめています。改善に向け本部で要求書を提出していきます。

休憩室

上司は「鏡」じゃないの

朝から「バカじゃないのか」と回りに聞こえるような声で部長が他の部長を叱責しているのだが、聞こえてくる「言葉」は、回りまで不愉快にする言い方でもある。

管理者同士とはいえ、これもコンプライアンスで禁じられている「パワハラ」なのではないか。

その上司の前で、期間雇用社員に「言葉きつく」あたる人もいるが、それを注意することも、自分がモノサシだつたら「勿論」ない。

「上司の姿勢は鏡」のはずだが、公然と職場で繰り返す「言葉の暴力」。「同僚だから構わない」は、通じない。(い)

郵政産業ユニオン千葉県協 ボーリング大会

日時：10月4日(土)
16時30分集合

場所：京成千葉中央駅側
「アサヒボウル」

参加費：ゲーム料・靴代込
み1500円

*賞品も用意しています。
往年のボウラー、自身な
い人も含め楽しみましょ

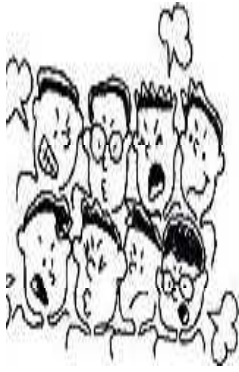
主催
郵政ユニオン千葉県協議会

メリットばかりの 株式上場話だが...

職場の業研では

質問に答えての欄には「株主も利用者も大事」と記されていた「株式上場について」の冊子。本場に「改革法」では郵貯・かんぽの金融2社の株式を10年以内に「全部を処分することを目指しつつ」「経営状況とユニバーサルサービスの履行への影響を勘案しつつ、できる限り早期に処分する」となっています。

「全株」が処分されることは金融2社は郵政グループから独立し、ユニバーサルサービスの義務がなくなることから、利益の最大化を求めて郵便局への委託を止めることが考えられます。そうならば、郵便局の収入の約8割を失い、郵便局は閉鎖に追い込まれる



ることは必至です。企業業績が上がる、儲けが上がる、株価が上がり、株主のための事業展開でしか見えてこないのが、株式上場への「姿」なのです。

将来像が見えない

現に、上場に向けた「答申」にはユニバーサルサービスを提供し続けるための方向性が示されていないのです。

「冊子」は、株式上場の目的やメリットのみの記載され、外資の大口株主の支配権や利益のみ、経営姿勢、市場からの圧力によるコスト削減、効果率性の追求などのデメリットには触れず、社員の不安心に配慮するものではありません。

朝日新聞(4/16付)には「日本郵政の将来像が不鮮明では、市場が上場の株価に不確実性を感じてしまう」と指摘する。など、上場ありきのスタンスでは、矛盾が拡大するばかりです。

中央交渉担当のガチンコ対決 65歳解雇裁判

24日、東京地裁527号で「65歳解雇」裁判の証人尋問が行われた。傍聴席は会社側も10数名含め一日中満席。入れない人も出て「年休とってきてるんだから会社は出て行け」の声も飛んでました。午前は、郵政ユニオンで交渉部を担当した山岸さんが証人席へ、「協約の締結」の問題について双方で証人への質問が続きました。「民分化で労働条件が承継されてメリットもあつたんだから不利益(65歳定年制)についてあつてもしょうがない」と、考えませんでしたか? など、勝手な解釈を押しつけ、会場の失笑を買った場面も。山岸さんは毅然と「そのような考え」は持ち合わせてないことを示していました。協約締結は会社に「騙された」という主張をされています。午後からの、会社側の鈴木証人(本社厚生部法規係)は会社側の質問に答え、ユニオンとの「協約締結」に関わって会社側の落ち度はないことを中心に証言していました。原告代理人の反対尋問では、「高齢者になっての事故が多かったのか」「クビを切るために年齢上限を設けたのか」「必要な能力を持った人とは」など具体的な質問に、「年齢が高いことで事故が多い傾向は調査していない」「首ではなく、更新しないとした」「具体的に示せない」「矛盾ある答弁」に会場からどよめきも起きていました。

さらに、今後、原告とその上司の証人尋問が続きます。

(い)

切手の収集やミニバザーもやるよ! 市浦労連「わくわくフェスタ」

浦安支部も加わる市川浦安労連では、地域の団体、構成団体の要求実現・交流や仕事の専門性を活かして市民との懇談・相談活動を広げようと、市川市にある大洲防災公園で「フェスタ」を開催することになりました。

規模は、千葉土建市川支部が毎年行っている「とんとこまつり」で1000人の参加がありますが、その倍の参加者で埋め尽くそうと実行委員会は検討を重ねています。

大工さん達の棟上げ式の実演や工作の広場、いろんな生活に関わる相談コーナー、飲食・販売の広場など企画しています。

郵政産業ユニオンの支部からは、切手の収集の展覧、郵便関係の相談、収益は社会福祉協議会への寄付とするミニバザーなどの出店を準備しています。浦安支部組合員一同頑張ってますので、顔出してみてください。

(わくわくフェスタは労働のワークをもじって名称を千葉土建の書記さんが考案しました。)

日時: 2014年10時から14時
場所: 大洲防災公園(市川市)